

連合長崎第47回地方委員会

私たちが未来を変える ～安心社会に向けて～



連合長崎は、10月26日(月)の10時30分からサンプリエール長崎において第47回地方委員会を開催しました。

委員会は、米村副会長の開会あいさつにはじまり、議長団に基幹労連・上野地方委員、情報労連・馬淵地方委員を選出して議事が進められました。

冒頭、宮崎会長があいさつ(別記)を行い、その後「第19回フォトコンテスト」最優秀賞の川崎正和さん(長崎私交通労組)の表彰を行い、2020年2月1日から今回の地方委員会までの組織拡大実績がなかったことの報告がありました。

その後、報告事項に入り、一般経過報告、2020春季生活闘争総括、組織・財政検討委員会中間報告、2020年度会計報告・会計監査報告をし、全会一致で承認されました。

審議事項では、第1号議案「2021年度運動方針(案)」、第2号議案「2021年度予算(案)」、第3号議案「連合長崎役員交代(案)」、第4号議案「連合長崎政治活動の取り組み(案)」の提案を行い、それぞれが全会一致で承認されました。また、第49回衆議院議員選挙の推薦候補予定者の皆様からそれぞれ決意表明

と、波佐見町議会議員選挙で当選した横山まさよ町議からあいさつをいただきました。

その後、今地方委員会で退任される2名の役員からあいさつをいただき、「スローガン」と「第47回地方委員会アピール」の採択後、中川副会長の閉会あいさつがあり、宮崎会長のガンバロー三唱で、「私たちが未来を変える～安心社会に向けて」のスローガンのもと、各構成組織、地協・ブロックと連携しながら、2021年度の取り組みを進めていくことを誓いあいました。



議長団 (左)情報労連 馬淵地方委員
 (右)基幹労連 上野地方委員



～コロナ禍における

連合長崎の果たすべき役割について～

世界的に猛威をふるっている新型コロナウイルスは、世界各地で日々爆発的に感染が拡大しています。世界の感染者は4100万人を超え、日本でも、感染者の累計は10万人に迫ろうとしています。

今回のコロナの問題がもたらした状況というのは、立場が弱い人たちに集中的に影響が出ており、真の意味でセーフティネットの脆弱さが明らかになりました。

こうした状況をふまえ、連合本部は、政府や各政党に対して、随時要請行動を行い、連合長崎も、県議会における会派・改革21と連携しながら、長崎県に対して緊急要請を行ってきました。

新型コロナに対するワクチンや治療薬がない状況では、非日常がしばらく続くことも覚悟しなければなりません。3密回避やマスクの着用、手洗いうがいの励行などの感染防止対策については、「自らと、大切な人の健康と命を守る」との立場から徹底していくことが大事だと思います。

そのうえで、今回のコロナ禍で明らかになった課題について、3点申し上げます。

その一つは、感染した人や会社などに対する誹謗中傷、いじめや差別などについてです。

いつ、自分や、自分の大切な人が感染するかもしれません。

今でも、運送関係の配達時の対応で、「ばい菌」扱いする人がいると聞きます。配達する人も「働く仲間」ですし、逆に、配達している人こそ、感染リスクの不安を抱えながらも、日々仕事に従事されています。しかもその多くが連合長崎の組合員です。

連合長崎には、バスやタクシー、鉄道などの交通関係に従事されている組合員、様々な部署で接客業務に従事されている人、県や各自治体など公務職場で働いている人、教育現場で苦勞している教職員、医療関係者や従事者の中にも組合員がいます。同じようなつらい思いをした組合員も多いのではないかと考えています。不安の裏返し、厳しい言葉や行動になっているのかもしれませんが、自分の配偶者や家族、大切な人に接する気持ちで、

接していただきたい、本日の地方委員会を契機に、その思いをぜひ、それぞれの組織や地域、職場、家族で共有していただきたいと思います。

その二つは、コロナ禍で見直せざるを得なかった、働き方、活動の仕方、生活スタイルなど、これを機に聖域なく改革していくことが必要かもしれません。

テレワークや在宅勤務、WEB会議、時差出勤など、好むと好まざるとにかかわらず経験しましたし、課題なども見えてきたのではないのでしょうか。従来の発想にとどまらず、変えていく良い機会にしていきたいと思います。

その3点は、コロナ禍において、いわゆる正規雇用ではない働き方の人たち、不安定な雇用、あいまいな雇用で働いている人たちに、そのしわ寄せがきています。雇用継続ができなかったり、休業に伴う補償が不十分であったり、生活そのものが困難になったりしています。立場の弱い人たちにとって、今こそ、労働組合の出番ではないかと思います。現場の実態や各人の悩みなどに耳を傾け、各単組が自らの労使関係で解決できること、加盟している産業別組合と連携し解決すること、連合長崎のネットワークを活かして解決できること、色々あると思います。

困っている組合員とその家族のために、そして、労働組合に入りたくても入れない働く仲間のために、汗をかいていく、私はそれが労働組合の原点にあるのではないかと思います。

～政治の取り組みについて～

コロナ禍で顕在化した社会の歪やセーフティネットの脆弱性などを変えていくためには、政治の力が不可欠です。

連合本部は、新型コロナウイルス感染症が社会・経済に与えた影響は極めて大きく、次期衆議院選挙は、新型コロナ禍という国家的危機を克服し、安心して持続可能な社会を展望することができる日本の将来ビジョン、目指す社会像について協議を行ってきた結果、旧国民、旧立憲両党と「共有する理念」について合意しました。

また、これと並行して、立憲民主党と国民民主党は、「綱領」と「党の規約」「代表・党名選挙規定案」について協議がなされ、それぞれの党における手続きを経て、両党が一旦解党し、合流新党が結成されました。選挙の結果、党名を立憲民主党、代表は枝野代表が選出され、衆参で150人の国会議員を有する政党として誕生しました。

自公による1強政治にストップをかけ、連合がめざす「働くことを軸とする安心社会」の実現のためには、働くもの、生活者の立場に立つ政治勢力の拡大が必要です。連合本部は、新立憲民主党と「共有する理念」を締結し、連合総体として支援していくことを確認しました。

そのうえで、今回合流できなかった議員で作られた新

国民民主党については、「所属議員とのこれまでの関係などをふまえ、同党との政策協定の締結をもって、その候補者を支援していく」ことを確認しました。

連合長崎は、こうした情勢変化及び連合本部方針をふまえ、共有する理念を含む政策協定書の内容について確認したことから、この間、4人の候補予定者と面談の上、新しい政策協定書を締結したところです。

私たちは、政権選択の受け皿として「大きな塊」ができたことは、歓迎すべきものと認識しますし、連合本部の方針にもとづき、新立憲民主党が結成された意義等をふまえ、連合長崎として新立憲民主党及び候補者を支援していくこととします。

また、長崎1区西岡秀子衆議院議員については、これまで基幹労連、三菱重工労組長船支部の組織内議員であった高木義明さんの後継として、働くもの、生活者、本当に困っている人たちのために、懸命に活動されてきましたし、今回の新しい政策協定について合意がなされたので、連合長崎としてあらためて、推薦・支援していくこととします。

もちろん、連合総体として支援していく立憲民主党公認の、2区松平浩一さん、3区山田勝彦さん、4区末次精一さんについても推薦し、連合長崎の力を最大限発揮し支援していくこととします。

私は、今回誕生した新立憲と新国民は、一気に解党・結党されましたし、党名や党の代表は変わっていないので、それぞれの組織においては、各産別内における十分な意思疎通が図られていない面があることも承知しています。連合長崎は、基本的には産業別組合の地方における連合体ですから、産別方針とのすり合わせを含めて、今後しっかり連携していきたいと考えていますが、敵は安倍政権を継承している菅政権であって、現状は、あくまでも大きな塊をつくる途上にあるとの認識に立っています。立憲、国民両党に対しては、さらなる大きな塊に向けて引き続き特段の努力を求めていると考えています。

さらに言えば、次期参議院議員選挙は、すでに2年を切っています。比例選挙における戦いを考えた場合、この一年の間に、大きな山が来るんだろうと思います。

連合長崎の力を最大限に発揮できる環境づくりに引

き続き努力していきたいと考えていますので、構成組織、地協の皆さんの特段のご理解とご協力をお願いします。

～核兵器廃絶と平和の取り組みについて～

戦後・被爆後75年の節目である今年の平和行動は、新型コロナの感染拡大防止の観点から、全国規模での集会やイベントは中止せざるを得ませんでした。

ただし、この節目の年の平和の思いをできるだけ発信していきたい、その思いで、連合本部と連携しオンラインによる動画配信、爆心地公園での慰霊の集い、長崎・佐世保のアーケードにおける原爆写真展など、これまでとは違ったやり方で実施することができました。また、全国的に取り組んだ、核兵器廃絶1000万署名については、連合神津会長、原水禁、KAKKINNからの代表者から、国連事務次長中溝泉さんへ長崎の地で目録を手交することができました。

現在この地球上に、14000発もの核兵器が存在しています。アメリカとロシアをはじめ国家間の対立と緊張感の高まりによって、核兵器使用の危機は高まっています。そんな中で、2017年に国連で採択された「核兵器禁止条約」が発効に必要な50か国・地域での批准が10月24日に達成され、来年1月22日に発効します。

唯一の戦争被爆国である日本が参加していないことには、憤りを感じますし、条約が発効したからといってすぐなくなるわけではありませんが、歴史的な大きな一歩であることはまちがいありません。対人地雷禁止条約やクラスター弾禁止条約の発効後、武器の使用や製造輸出入がほぼゼロになったこと、「核兵器が非人道的で許されないものということが国際法規範になる」ことで、核保有国の行動変容が期待のではないかと期待しています。

こうした動きの背景には、被爆者の皆さんがつらい過去を懸命に語り継いでくれたこと、そして、私たちの先輩から取り組んできた核兵器廃絶の運動の成果だと思っています。

被爆地長崎に働く者として、核兵器は必ず無くすことができる、との信念のもとに、核兵器廃絶の活動を続けていきたいと思っています。



第49回衆議院議員選挙推薦候補予定者、横山まさよ町議あいさつ



退任役員あいさつ

連合長崎 30周年記念式典を開催



連合長崎は、10月26日(月)の15時00分からサンプリエール長崎において30周年記念式典を行いました。

冒頭、宮崎会長からあいさつがあり、まず今回表彰される方々へのこれまでの感謝の言葉をいただき、1990年5月24日結成時の統一大会宣言のなかで、国民・県民から信頼され期待される労働運動の推進と、県下で働くすべての働く仲間の生活向上に向けた取り組み強化など、今だからこそ大事にしなければならぬ、この30年の節目に、こちらから心ひとつに、一步一步前に進んでいくことの思いを伝えられました。

その後、来賓を代表して下田祐二 連合本部総合組織局長、中村法道 県知事、佐藤健吾 長崎労働局総務部長から祝辞をいただき、表彰された方々へ記念品を贈呈し、代表して小石隆 元連合長崎会長からお礼の言葉をいただきました。

式典終了後に、三遊亭圓歌師匠による記念講演を行い、参加者みなさんの笑いが会場内に満ち溢れていました。

さらに、講演終了後に記念レセプションを開催し、田上富久 長崎市長をはじめ多くの来賓の方々に参加いただき、お祝いの鏡開き、アトラクションとしてスコットランドの豊かな風景を彷彿させるバグパイ

プ演奏を行い、最後に上田順一 長退連会長の万歳三唱で締めくくりました。

この30周年を振り返り、これまで確認してきた活動の原点である「現場(職場)・組合員」をこれからも大事にしながら、「私たちが未来を変える」との強い決意のもと、連合長崎がさらに飛躍し真の意味で「信頼される連合長崎」をめざして取り組んでいきますので、今後も各構成組織、地協・ブロックの皆様のご理解とご協力をお願いします。



三遊亭圓歌師匠による記念講演

女性委員会役員学習会開催

吉岡和佳子さんによる講演



2020年10月17日(土)長崎地区労会館にて女性委員会役員学習会を行いました。

例年、構成組織女性交流会を開催していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止することとなり、行事の検討を行った結果、役員での学習会を開催することになりました。

学習会では「これからの働き方と暮らし方～笑顔が増える12のヒント～」と題しまして、オフィス・ク

ラスパディアの吉岡和佳子さんにご講演をいただき、改めて自分自身の「仕事」と「生活」について考え、仕事と生活への有効な時間の活用や考え等について学びました。

最後に、連合長崎女性委員会役員全員から学習会にあたっての感想を頂き、それぞれの立場からの有意義な取り組みとなりました。



学習会の模様

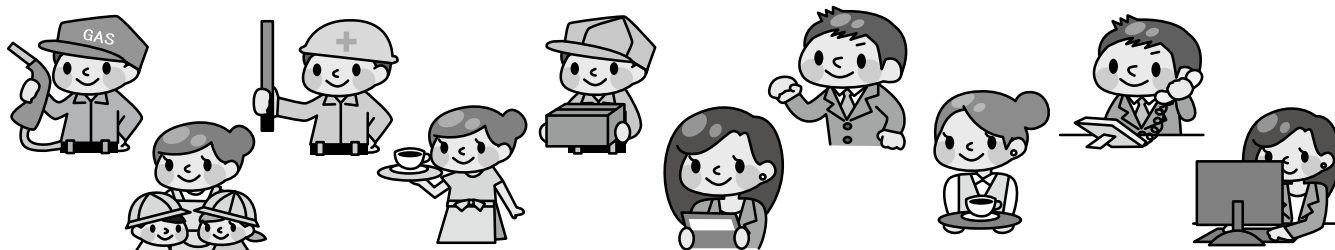
連合ながさきユニオン定期大会

～私たちが未来を変え！ 安心社会に向けて～

連合ながさきユニオン第8回定期大会が2020年11月23日に長崎県勤労福祉会館1F多目的室で開かれました。「1人でも加入できる労働組合」として2014年3月29日に結成され、組合員11人でスタートしましたが、現在約30人の組合員の方がいます。突然の解雇やパワハラなど厳しい労働環境の中で組合員となり交渉を重ねながら、解決に向けて頑張っています。今大会では、コロナ禍であることを踏ま

え規模を縮小して開催しました。

誰にも相談することが出来ずに劣悪な環境で仕事を余儀なくされている働く仲間がたくさんいる現状から、「連合ながさきユニオン」の社会的役割と使命はますます大きくなっています。これからも、各構成組織・各地協のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。



連合長崎第19回フォトコンテスト最優秀賞が決定！

9月15日(火)に「連合長崎第19回フォトコンテスト」の審査を行いました。今年は83点の応募があり、「令和長崎、ここから始めよう(長崎私交通労組 川崎正和さんの作品)」が最優秀賞に決定しました。皆様、力作ばかりでした。来年もたくさんのご応募をお待ちしております。

最
優
秀
賞



「令和長崎、ここから始めよう」
川崎 正和さん(長崎私交通労組)

優
秀
賞



「胸 躍る春」

鍋内 翔さん
(エムエイチアイマリンエンジニアリング労組)

連
合
長
崎
会
長
賞



「磯」

小川 美喜雄さん
(佐世保重工労組OB)

連
合
長
崎
副
会
長
賞



「水中花」

原 敬則さん
(大島造船労組)

入賞



「祝福」
鈴木 寛太郎さん
(佐世保市役所職員組合OB)



「輝きの造形」
梅川 慎一さん
(長崎RMC労組)



「溪谷の春」
峯友 恒さん
(九電ユニオンOB)



「初夏」
村井 文明さん
(西海市職員組合 家族)

佳作



「水鏡」
堀 隆義さん
(全自交県タクシー労組OB)



「愛おいしい」
坂田 真美さん
(三菱重工グループ労連 家族)



「なかよく散歩」
左村 博志さん
(西肥自動車労組OB)



「春の訪れ」
松良 なつみさん
(長崎私交通労組 家族)



「ママのお手伝い」
坂井 保美さん
(三菱重工グループ労連 家族)



「水無月の朝焼け」
城 昌志さん
(長崎ユニチカ労働組合)



「南島原西子岩と天の川」
竹野 大志さん
(長崎県職員組合)



「春を満喫」
矢津 充浩さん
(佐世保重工労組OB)

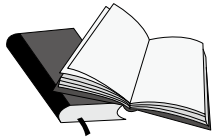


「なつやすみ」
村井 真奈美さん
(西海市職員組合)



「古き街並み」
松良 慎之介さん
(長崎私交通労働組合)

長崎大学との寄付講座調印式

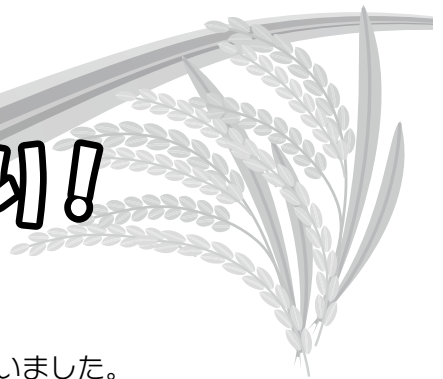


～学生に労働組合の役割を求めて～

2020年11月25日(水)長崎大学経済学部と寄付講座の協定を更新する調印式を行いました。協定内容は、2021年度から3カ年で2014年からの取り組みとして継続しており、労働の在り方や労働組合の役割に理解を深め、職業意識を高めてもらうことが目的で、毎年4月から7月末までの約4か月で15講座を実施予定です。



「アジア・アフリカ支援米」 各地協で稲刈り！



春に田植えを行った各地協・ブロックにおいて、10月に稲刈り作業を行いました。

今年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、ほとんどの地域で少人数での対応にて実施しました。

収穫された支援米は、現在、各構成組織へお願いしていますカンパ金で購入するお米と合わせ、来年1月に支援先に発送予定です。各地協・ブロックの役員、組合員・家族の皆様、ご協力ありがとうございました。

また、今年の1月にくつくま孤児院(カンボジア)に発送したお米が、無事到着したことの報告がありました。子どもたちも大喜びで元気に過ごしているとのことで、今後も引き続き支援していきますので、みなさまのご協力をお願いします。

